

ローマ数字の法則

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	L	C	D	M					
	50	100	500	1000					

これらの組み合わせ（それぞれの数を足したり引いたり）で様々な数をつくっていきます。

ルール① 左から大きい順に並べて足します。例) MD → 1000+500=1500

ルール② 左に小さい数字がくるときは右から左を引きます。

例) XL → 50-10=40 ※左に小さい数字がくるときの右の数が左の数のちょうど5倍または10倍のとき

これらをあわせて表示するとたとえば2040は MMXL→1000+1000+50-10 となります。

次の数字をローマ数字であらわしてみよう。またローマ数字を数字で表してみよう。

① 400 → CD

② 765 → DCCLXV

③ MMXXIII → 2023

④ MCDXL → 1440